

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年4月3日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670900150
法人名	医療法人 慈和会
事業所名	大口病院グループホームつどい
所在地	鹿児島県伊佐市大口大田124-3 (電話) 0995-23-0820
自己評価作成日	平成31年2月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成31年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症治療病棟、重度認知症患者デイケアを有する精神科病院を母体とする医療法人によって開設されたグループホームです。定期の主治医の診療以外に内科医による月2回訪問診察、病院看護師の訪問、緊急時24時間連絡対応出来る他、重度認知症患者デイケアの利用で専門職によるリハビリを継続できます。

広い敷地内には生活訓練施設、障害者グループホーム、就労支援施設、カフェレストランもあります。就労支援の一環である有機農園、パン工房、鶏舎から入手した新鮮で体に優しい食材をつどいでも毎日提供しています。又つどいの菜園では野菜作り～収穫を楽しみながら採れたての野菜は献立の一部になります。隣接する保育園の園児達が散歩に来たり笑顔の交流もあります。

季節を感じてもらうために季節行事を大切にするとともに、入居者の方々が安心安全に穏やかな生活を送ることが出来るよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は母体が認知症治療病棟や重度認知症患者デイケアを有する医療法人であり、施設周辺に生活訓練施設、障害者グループホーム、就労支援施設、カフェレストラン等があり、認知症に対する理解や支援方法、認知症の患者の専門職によるリハビリも充実している。

- ・主治医の診療や内科医による訪問診察や看護師の訪問で24時間医療連携体制が整っている。関連事業との連携が取れて協力関係を築いている。

- ・自治会に加入し清掃活動に参加したり、近隣住民との交流もある。ボランティアの紙芝居や歌体操等がある。

- ・入居者のできることを積極的に取り組み、花や野菜植え・折り紙・にじみ絵・七夕飾り等の創作活動やラッキョウ漬け・あんずジャム作り・味噌作り等、楽しみのある暮らしを支援している。

- ・管理者は職員を大切にして働きやすい環境を作り、研修会の参加や資格取得に協力的であり職員は自己研鑽に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	方言を用いた独自の理念を掲げ、ホールリビングやスタッフ室に掲示し、つどい会議時、声に出しスタッフで確認している。	地域密着型サービスの意義を踏まえ、方言を用いた事業所独自の理念をリビングや事務所、パンフレットに掲示している。つどい会議で唱和し確認、共有して実践につなげている。職員は毎年個人で目標を掲げ、理念に沿った支援を目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の加入、定期的にボランティア訪問受け入れ、近くの保育園児や近所の商店等との交流がある。H29年11月同サービス事業者とフォトコンテスト開催し、元気こころ館へ写真の展示を行う。	自治会に加入して地域の行事、清掃作業に参加している。高校生の職場体験や毎月のボランティアの歌体操・紙芝居等の訪問を受けている。保育園児と散歩時に交流があり、近隣住民とは挨拶や会話がある。法人主催の認知症カフェに参加することも視野に入れている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	保育園児と病院グラウンド等での交流や行事等外出、又散歩の際、地域の方との挨拶を交わしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催している。参加者は、利用者家族代表、自治会長、民生委員、市職員、包括支援センター職員、病院関係者である。利用者状況、ホームの行事・活動内容、ヒヤリハット・事故報告、取り組み等を報告し、意見交換を行いホームのサービス向上に努めている。	2ヶ月に1回開催している。入居者の状況・ホームの行事・活動内容・ヒヤリハット・事故報告・外部評価の報告等を行い意見交換をしている。夜間時、ホームの玄関前が暗いとの意見があり、外灯センサーを取り付ける等、サービス向上に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域密着サービス連絡協議会に参加し、研修やホームのサービス状況の取り組み等報告し、意見交換を行っている。	市担当者とは必要に応じて窓口に出向いたり、電話で取り組み状況を相談しアドバイスを受けていたり、運営推進会議に参加してもらっている。グループホームからは地域密着サービス連絡協議会に積極的に参加している。生活保護関係の担当者も訪問があり、連携を密にとって協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアル等で何が拘束なのかを確認共有し、拘束のないケアを目指している。玄関へは施錠せず利用者の居場所をスタッフ間で声掛け確認する。又随時、拘束にあたらぬかをスタッフで確認している。外に出ることを止める事でストレスにならないように、随時、散歩に行く等気分転換を図っている。	マニュアルを作成し、身体拘束しないケアの研修会や勉強会を定期的実施している。具体的な事例を挙げて、言葉の拘束も含め研修して随時意識しながら、共有し実践に取り組んでいる。日中は玄関の施錠はしていない。外に出たい時は職員が同行して散歩したり、話をして気分転換させ拘束しないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加や新聞TV等から虐待について学び確認している。何気なく利用者に言った一言でも虐待に当たらないか、傷ついていないか、言葉の暴力にならないかを常にスタッフ間で注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、対象者となる方はおられないが、成年後見制度について研修を受けているので必要な時は支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は、本人・代理人のご家族へ契約書・重要事項の説明、個人情報保護、利用料金等の説明を行い、同意を得て署名押印を頂いている。又退居時は、ご家族へ説明を行い、了承を得て転居先への相談・支援をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時、サービス担当者会議、又運営推進会議等で意見や要望を伺い、スタッフ間で共有・検討している。	利用者からは、日常のケアの関わりの中での会話や表情・所作で把握している。家族からは、年2回の家族会や面会時、遠方の方には手紙や電話で近況報告をする際に意見や要望を聞いている。サービス担当者会議・運営推進会議・『つどい便り』の返信でも把握している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>会議・ミーティング、申し送り等で出た意見をスタッフ間で確認し、要望等は運営者に出している。</p>	<p>月1回のミーティングやつどい会議・申し送り等で職員の意見や要望を聞いている。日常的には昼休み時間に話を聞いている。資格取得について研修会等で勧めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>資格取得の支援と職員間の交流・気分転換が図れるように新年会・歓迎会等を毎年、開催している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、職員の知識向上、勉強のために、法人内・外部研修への参加を積極的に勧めている。外部研修後は、ホーム内の勉強会で報告・意見交換を行い、職員の知識・ケアの向上に役立てている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>連絡協議会へ加入し、研修・事例検討会・講演会等へ参加し、同業者との交流・情報交換を行い、ケアや取り組みに活用している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所相談時、まず本人にホーム内の施設見学をして頂き、緊張せずゆったりとした雰囲気です話しが聞けるような雰囲気作りに努めている。本人・家族が利用に納得されてから、日中やお泊まりの体験利用をして頂いている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>施設見学や入所前の話し合い・情報収集を行う。本人・家族より要望等伺い、どういう支援が必要かニーズ等を関係者で検討する。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ホームの生活状況を見てもらい、本人家族が不安に思っていること等伺い、その方のニーズの把握に努める。今後、必要とした場合の支援については、本人・家族に確認している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者の方より昔話や生活の習わし等伺い日々の生活や行事の際に取り入れたりしている。利用者スタッフ間で感謝の言葉が自然と出るような関係作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、本人とゆっくりお部屋で過ごして頂く。その際、日々の様子や健康状態も報告するようにしている。家族の意向があれば、いつでも記録物を見て頂けるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知人の面会がある等 関係が続くよう支援している。	入居時にアセスメントを記録し把握している。親戚や知人の面会も多いので本人の生活歴から関係支援をしている。馴染みの店の買い物に同行したり、理美容室・墓参りは家族の協力に対応している。手紙・電話の取次ぎも行い、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の円滑な関係作りのためにスタッフが会話のサポートをしたりする。レク活動参加は全員参加以外に小グループや個人で各自の好み合った物をおしゃべりしながら行っている。口腔体操等声を出す事で会話の機会や頭の体操にもなり皆さんで楽しみながら参加出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたら入院中面会に伺い病院関係者に状態や様子を確認したり、又家族と連絡を取り合い情報共有を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知症により意思疎通が困難な場合は、日常の関わりや表情・言葉から、その方の思いや真意を感じ取るように努めている。又その事は介護支援経過記録に記載するようにしている。	日々の会話の中から思いや意向を確認している。困難な場合は家族や関係者に聞いたり、状態観察や見守りを通して表情や言葉から、支援経過記録に記載し職員で共有し、本人が望む暮らしの実現に取り組んでいる。夕方になると帰宅したい願望のある利用者には、好きな歌を一緒に歌ったりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族や病院等から生活歴や趣味等聞き取りアセスメントし、その人らしい生活や望む生活が送れるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各自の生活のペースやリズムを大事にし、日常の様子観察・把握を行います。できる事についてはなるべく自分でして頂けるよう自立支援に努め、又できるお手伝いをして頂くことで生き甲斐作りにつなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族の意向を伺い、スタッフや関係者から情報収集し、その方のニーズを割り出し、実現していく優先順位を本人家族、関係者で確認し決めている。月1回評価やカンファレンスで介護計画に反映している。</p>	<p>本人・家族の意向を把握し、主治医の意見を主体に家族・職員・看護師等で担当者会議を開催し介護計画を作成している。参加できない家族には前もってプランに対する希望や要望を聞いて本人中心の計画を作成している。モニタリングは月1回行い定期的にカンファレンスを行っている。見直しは3～6ヶ月で実施している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別の介護支援経過記録に日常の様子、心身状態、本人が発した言葉は、なるべくそのまま記録し、スタッフ間で情報共有を行う。又変化や見直しが必要な場合は、その都度、スタッフ間で確認している。経過記録はケアプランに添った記録を付けるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>遠方におられるご家族や通院への付添が困難と思われるご家族については、必要に応じて通院付添、送迎等の支援している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ボランティア、地域の方（理容室）の訪問があり交流を楽しまれている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回主治医の診察と内科医の訪問診察の実施。受診以外に定期的に主治医へ利用者の状態報告を行ったり、かかりつけ医への受診はスタッフが付き添う。それ以外の他科受診については、基本は家族の付添であるが、家族の付添が困難な時はスタッフが通院に付き添っている。	かかりつけ医は本人・家族が希望する医療機関になっており、ほとんどは母体医療機関である。月2回の主治医・内科医の訪問診療がある。週1回は主治医に身体状況を報告してしている。歯科は往診で対応している。他科受診は家族の付き添いが基本であるが、状況により職員が付き添っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体病院から週1回の看護師訪問や看護師がつどい夜勤を行い健康管理や状態の変化にも対応できている。母体病院の受診の際、看護師への連絡報告の際、相談にも応じてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、病院への情報提供や面会を行っている。又その際、病院スタッフから情報収集・交換も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取り研修参加、又随時、勉強会を行う。当施設では協力病院があることで、終末・急変時等、ご家族も病院があるから安心ですと言われることが多い。</p>	<p>入所時に重度化や終末期における方針を書類で説明し、同意書をもっている。状況の変化により、主治医と家族が話し合い家族の意向に沿った支援をしている。看取りの対応も可能である。母体協力医療機関が同敷地内にあり、24時間緊急受け入れ体制がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変・事故発生時の対応・手当について勉強をしたり、又消防の救命講習で心肺蘇生法・AEDの使用方法についても学んでいる。</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の立ち会い協力のもと、防災訓練年2回実施。母体病院への防災訓練参加。平成29年度ご家族・民生委員の防災訓練への参加あり。</p>	<p>年2回消防署立会いのもと、昼夜想定防災訓練を行い避難場所・避難経路の確認・消火訓練を行っている。スプリンクラー等、防火設備は業者が定期的に点検している。母体医療機関の防災訓練にも参加し、家族や民生委員・地域の住民も参加している。地域連絡網もある。備蓄はラーメン・カンパン・水・缶詰等を用意している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や倫理及び尊厳、プライバシー保護について研修会に参加、年2回接遇チェックリストの作成、自己評価を行い、プライバシーや自尊心を大事にした対応や声掛けを行うようスタッフ間で心掛けている。	接遇・倫理・人格の尊重について研修会に参加している。年2回接遇チェックリストでの自己評価を行い、個々の人格の尊重とプライバシーの確保に努めている。入浴・トイレ介助の声かけ・入室のノック・名前の呼び名等、配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の状態に応じたコミュニケーション方法で支援している。言葉以外に表情や態度から思いや願い等を確認し、利用者の立場に立った支援をするよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの1日の生活の流れはあるが、本人の体調や状態に応じたり、又希望がある場合は、本人が過ごしたいようにしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人ができる身だしなみは自分でしてもらっている。服等本人に確認し、好みに任せている。散髪は美容室の方に来てもらい本人の好みを伺いカットしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人敷地内に農園・パン工房・鶏舎があり新鮮で安全な食材を提供している。季節事の行事食、外食、又誕生日には手作りケーキや夕食にはお赤飯・ちらし寿司等、本人の好きな物を提供したり、皆さんで作る調理活動も行っている。食後のお盆やテーブル拭き等のできるお手伝いをしてもらっている。	法人の敷地内に農園やパン工房・鶏舎があり、そこで採れた旬の野菜や食材を使って職員が献立作成して調理している。食の形態も個々に合わせている。行事食・おせち料理・花見・そうめん流し等、楽しみになるような食事を提供している。味噌・梅干し・らっきょう漬けを作ったり、お盆拭きや下膳を職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は、毎日、チェックし、バランスのよい献立作りに努めている。本人の食事摂取状態や嗜好等を考慮し、個別に食材等を購入したり外食を計画している。水分量が足りない時は、汁物やポカリ等で必要な水分が摂れるよう対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前後のうがいの声掛けや個別に誘導し見守り介助を行っている。夕食後は義歯洗浄し、入れ歯洗浄剤を使用している。昼食前、口腔体操を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時のトイレ誘導や1人ひとりの排泄パターンの確認把握をし、排泄状態に応じて、パット・おむつ使用の軽減を図っている。	排泄チェック表を活用してパターンを把握しトイレ誘導している。トイレでの排泄を支援しオムツの使用量軽減に努め、利用者の残存機能の保持、自立に向けた支援をしている。介護用品は個々に合わせて、パット選択に配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	手作りヨーグルト・繊維質の食材・果物等を取り入れたり、歩行運動や体操で排便を促すようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本午前中の入浴実施であるが、利用者の意向、体調や排泄状況等、又冬場は風邪等感染症も考慮しながら入浴を実施している。	入浴は週に2回午前中に実施しているが、本人の希望があれば毎日でも入浴が可能である。入浴剤やシャンプーは好みのものを使用し、季節によって柚子湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝やお部屋での休息は希望や状態に応じて実施している。夜間、入床時間は本人に任せっておりTVを観たい方には観て頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の内服薬をファイルし、随時、確認しながら服薬管理を行っている。状態の変化により、服薬が変更調整された場合は、記録し、スタッフで申し送り確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自の得意分野を伺いながら、又1人ひとりに応じた家事やお手伝いをお願いしたりしている。昔、作っていた味噌作り、梅干し作り、ソバ打ち等、昔話をしながら各自の作り方等伺いながら一緒に行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	近くのコンビニや当法人内のパン屋に散歩も兼ねて買い物に出掛けたり、利用者の意向に応じて、スタッフと一緒に銀行、スーパーマーケット、ラーメン店に出掛けたりする時もある。	日常は外気浴や散歩をしたり、敷地内のパン工房にパンを買いに行ったり、近くのコンビニ等へ買い物に出かけている。年間計画をたてて初詣・木市・花見・そうめん流し等に行っている。家族の協力で墓参りや外食に出かけるなど、個々の希望に沿って支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所のコンビニ、スーパー等での買い物支援時、支払いのできる利用者には、本人にお金を渡して買い物を楽しんでもらう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	遠方の家族と電話で話したりされる。手紙の書ける方には、お手紙（年賀状）支援も以前は行っていたが、現在、手紙を書かれる方はおられない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールリビングから台所が見えスタッフが作る食事の匂いをかいだり、又台所に目をやりながら「お腹がすいた」と言われる。テーブルには季節の花を置く事もある。廊下の壁には、行事の写真や作品を掲示している。又リビングホールには加湿器を置き空気の乾燥にも気を付けている。</p>	<p>キッチン是对面式で、ホールやリビングにいる利用者の動きが見えて対話をしている。室温・湿度・採光が良く加湿器もある。ウッドデッキから外の景色が見える。廊下の壁に季節感のある作品や行事の楽しい写真が飾っており、居心地よく過ごせるように工夫されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下にソファや椅子を置き自由に使ってもらっている。又天気の良い日は、ウッドデッキ出て、外を見たり日光浴を行っている。又ホールリビングには、仏壇を置きお盆の時期等お供え物を上げたりしている。</p>	/	/
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>写真・自分で描いた塗り絵・活動で作った作品・本人の好まれる物を部屋の壁やダンスの上に飾っている。</p>	<p>居室はゆったりとした洋室でエアコン・ギャッジベッド・ダンス・冷蔵庫を設置してある。寝具やプロマイドや家族の写真・テレビ・ラジオ・手芸の作品等があり、自分らしい暮らしをしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下は歩行の妨げにならないようにソファや椅子以外の物は置かないようにしている。各居室室内には備え付けのタンスを置いてあり、更衣等ができる方には、毎朝、自分で下着交換を行ったり、洗濯物を畳んでタンスにしまうまでして頂いている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11,12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない